

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 10 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人 社団 明和会		
事業所名	ラ・メール大野		
所在地	広島県廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	平成25年8月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年9月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ラ・メール大野は、海や山の近くに位置し季節感を感じながら生活できる環境になっている。病院併設の施設で医療面の支援体制については、入居者及びそのご家族に安心を提供している。また、地域密着型の施設として毎月地域のふれあいサロン等に出向き、地域との交流を深め、入居者の方が地域で継続した生活が送れるように取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ラ・メール大野（以下、ホーム）は、宮島対岸にある開設10年目を迎えるホームです。国道沿いにありながら静かで、海が近く自然に恵まれた場所に位置します。ホームでは、食事を大切に考え、細かく刻まなくても入居者が食べやすいよう調理の段階からひと手間かけて工夫し、提供されています。また、口腔ケアマイスターの資格を持つ職員が主体となって口腔体操、口腔ケアを実施し、入居者の肺炎予防につなげています。ホームでは、母体法人と方針を共有し、毎年理念に沿って目標を立てています。今年度は、「入居者と家族が安心できる介護」「信頼できる介護」の実現に向けて、職員同士連携を取りながら、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアに努められています。また、母体法人の病院が隣接しており、医療面で安心できる環境です。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。	ホームは、母体法人の看護部に所属し、法人と理念を共有しています。毎年、法人で理念に沿った目標を立て、ホームではその目標に沿って独自の目標を定め、理念の実践に向けて努力されています。今年度は、「入居者と家族の安心な介護」「信頼できる介護」を目標とし、具体的な実践計画を作成し、職員は入居者の気持ちに寄り添いながら、目標とするケアの実践に努められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の一斉清掃や行事に参加し、毎月行われているふれあいミニサロンにも参加している。また、近隣の保育園との交流も行っている。西公民館にて入居者様の作品を展示している。	町内会に加入されています。ホームへは、読み聞かせやカラオケなど、地域住民のボランティア訪問があります。また、入居者のふれあいミニサロンへの参加は定着してきています。牛乳パックを利用して、職員と入居者が一緒に作った椅子やかごを公民館や保育園に手土産にするなど、日頃から交流に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアや近隣中学校の職場体験実習、認知症介護実践研修などの実習を受け入れ、ホームの機能を還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎の運営推進会議で、ホームの活動報告などについて話し合いを行っている。(偶数月第四月曜日に開催)	家族代表、町内会地区長、地域包括支援センター職員、市職員の参加があります。会議では、活動報告やインシデントの報告などが行われています。出された意見や提案は家族会でも報告されています。	ホームを地域住民により理解してもらうためにも、今後は、運営推進会議のメンバーに民生委員や地域住民にも参加の呼びかけを行い、より多くの意見交換ができるよう期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。毎月、介護相談員(廿日市市職員)の受け入れも行っている。	運営推進会議に市担当職員の参加があります。職員が認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、キャラバンメイトに協力するなど、日頃から市担当課との連携に努められています。また、徘徊ネットワークに加入されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。スタッフの出入りは名前を云って行うようにしており、外出の察知ができるようにしている。</p>	<p>毎月の合同ミーティングで身体拘束について職員の理解を深めています。帰宅願望の強い入居者は落ち着くまで一緒に散歩をされています。職員は入居者の思いを尊重し、身体的な拘束、言葉による拘束をしないケアに努められています。また、職員同士、お互いに気づいたことは注意し合える関係ができています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修の参加で高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明などを行っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文書と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問等があれば、十分な説明を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回納涼祭とクリスマス会において家族会を開き、意見や要望などをいただくように働きかけている。また、意見や苦情等の相談を受ける体制を整えている。</p>	<p>面会時に、職員や管理者が家族からの意見を聞かれています。家族会で出された意見は全職員で話し合い、早急に対応されています。法人の対応が必要な場合は、各委員を通じて法人にあげるなど、運営に反映する仕組みが整っています。また、外部評価で出された家族アンケートについて、職員間で検討、改善し、家族会で報告されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	両ユニット合同のミーティングを行い、意見交換を行っている。その後更に、各ユニットに分かれて個別のミーティングを行っている。(毎月第三水曜日に開催)	管理者、主任は、月1回の合同ミーティングで職員の意見や提案を聞いています。職員から、勤務体制に関することやケアにつながる意見や提案が出され、運営に反映されています。職員の意見から、タオルウォーマーやカラオケ、分別して洗えるよう洗濯機などの購入が実現しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとり进行评估するシステムを導入している。また、管理者や主任と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加については、スタッフの希望する研修を受講できるように配慮している。費用なども法人教育委員でサポートできる体制がある。また、毎月法人内で研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市社協主催の認知症キャラバンメイト連絡協議会に参加し、関係機関と意見・情報交換を行っている。今後は他の事業所への見学や情報交換も積極的に行っていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接や見学時に話を聞かせていただき、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や面会時にコミュニケーションをとりながら要望などを汲み取り、きちんとしたアセスメントを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては、必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により専門医に相談・紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	季節に応じた作品作りを入居者様と一緒にいき、共感したり、支えあう関係を築くようにしている。また、入居者の方同士も支えあえるようにフォローしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご家族の思いを聞き、ご本人の様子や意向などをお伝えすることで信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時になじみの物品を持ち込んでいただく工夫をしている。また、ご家族や知人の方などの面会時に情報収集を行っている。	家族の協力を得て、月に1～2回自宅への外出や、墓参り、入院中の家族の見舞いに出かけるなど、馴染みの関係の継続を支援されています。また、市内出身者が多く、ホームの廊下には、地域の馴染みの場所や建物が描かれた手作りの地図が掲示されています。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブルのない関係が構築できるように、入居者様同士の席順など職員が介入し、気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、ご家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できることを主体として介護計画に取り入れ実践している。	入居者にカンファレンスに出席してもらい、把握した希望を介護計画に反映しています。また、日常会話の中から思いや意向の把握に努められています。牛乳パックを病院に取りに行くことなど入居者から希望が出され、プランに盛り込まれています。職員は、医師とも連携しながら入居者の希望の実現に向けて努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の方より今までのライフスタイル、生活歴等について情報をいただき、入居者様一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様の有する力等を把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い健康管理に努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング		3か日ごとにモニタリングをされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	各ユニットで6カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。その際、ご本人、ご家族の方にもカンファレンスに参加して頂き、思いや意向の確認をしている。	す。部屋担当を決め、入居者の状況や意向の把握に努めています。他の職員の意見も持ち寄り、本人、家族、担当職員、ホーム長がカンファレンスに出席し、ケアマネジャーを中心に現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりの行動記録があり、状態やケア内容、気づき等を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の方からの宿泊希望があった場合、寝具の貸し出しや食事などの提供も可能となっている。また、法人内の福祉用具販売部門を通して、オムツや福祉用具の購入も可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地区の「ふれあいミニサロン」に毎月参加している。参加することにより季節感を味わってもらい、地域の方々とも交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の方の意向に沿った医療機関での受診・往診ができるように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。	月1回、隣接する法人の病院受診を支援されています。リーダーが受診に付き添い医師との情報共有に努め、変化があった時は、家族に報告されています。医師の説明がある時は、家族が同行されません。夜間の緊急時は、法人当番病棟医師の受診、または、往診があり安心な体制が整っています。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設病院(大野浦病院)の看護職と連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時ご家族に対して、急変時や重度化した場合と終末期のあり方(延命治療等)についての意向を確認し方針を決めている。	重度化した場合には、家族、医師を交えて方針を決めておられます。医療が必要な場合は、医療機関を紹介されています。今後、職員の研修も含め、看取りができる体制作りを課題として検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成しており、スタッフ一人ひとりが内容を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行い、入居者様に意識していただくようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し、スタッフに徹底を図っている。近隣との協力体制については、地区の援助を受けられるように運営推進会議で話し合っている。	想定される災害は、火災、地震、水害、津波です。法人内で合同避難訓練を実施されています。職員が防災ワークショップに参加し、町内に合同避難訓練を呼びかけられました。町内からホームを知ってもらうことから始めてほしいとの意見があり、今後の課題とされています。	今後は、運営推進会議メンバーと一緒に避難訓練を実施し、ホームの理解をより深めてもらう仕組みづくりに期待します。また、運営推進会議を利用して、災害時に地域にお願いしたいことやホームが地域に協力できることをお互いに確認し合い、協力関係づくりを進められることを提案します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、無理強いしないケア、待つケアをされています。家庭的な雰囲気を大切にしながら、入居者にわかりやすい言葉かけ、丁寧な言葉遣いを心がけておられます。トイレへの誘導もさりげなく声かけし、羞恥心に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような言葉かけを行っている。また、残された力を使って生活していただくよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の意思や体調に配慮し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えや化粧などはご本人に任せて行うなど、本人の意思を大切にケアを行っている。毛染めの希望にも対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様一人ひとりの力を活かし、盛り付けやお盆拭き、お盆並べなどを一緒に行っている。	3食とも職員の手作りです。副食は柔らかく、刻まなくても食べられるように調理段階から工夫して提供されています。誕生日には入居者の好みのメニューにし、家族も招待されています。月1回、焼肉や夏場を除いて刺身の日が設けられ楽しみに一つになっています。入居者は、食材の買い物に出かけたり、状態に応じた役割を果たされており、家庭的な雰囲気が感じられます。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量の記録を行い、摂取状況の把握に努めている。摂取カロリーが不足している場合には、ご家族の方と相談し栄養補助食品などの摂取をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者様個々に応じた口腔ケア（義歯の洗浄等）を行っている。併設病院の歯科衛生士に定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けながらケアにつなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	スタッフは記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけの際に声の大きさなどさりげなく対応するようにしている。	入居者の排泄のリズムを把握し、さりげなくトイレに誘導されています。リハビリパンツでは上げ下げが難しく、日中は布パンツに変えることでトイレでの排泄が可能になった事例もあります。職員は、入居者の状態に合わせた排泄方法を検討し、自立に向けて支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者様一人ひとりの状態を把握し、乳製品（牛乳等）の摂取をすすめたり、水分補給の徹底を図っている。その他対策として、おやつ前の体操や散歩などによる適度な運動を取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には2日に1回の入浴。入居者様一人ひとりの希望に沿ったケアを行っている。	10時から17時の間で入浴が可能です。風呂好きな入居者は、自分のペースでゆっくり楽しんでもらえるよう配慮されています。希望があれば同性介助も可能です。また、重度化した場合は、隣接する母体病院の特殊浴槽を使用することもできます。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。 また、体調に合わせ、適度な休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用ができるようにしている。また、薬剤師と連携し薬をセッティングしてもらうなど誤薬予防のためのシステム作りができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても盛り付けや洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴を活かせるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。6月には、山口県の蜂ヶ峰公園に薔薇を見に行った。	日常的には、ホーム近隣を散歩されています。近くの保育園に出かけ、園児との交流を楽しんだり、近所の菓子工場で茶菓子を味わったりする楽しみもあります。毎月、外出計画を立て、初詣や花見、あじさいツアー、紅葉狩りなど季節ごとの外出や、家族の協力による外出支援も行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合には、ご家族の方に預り書を発行し管理している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者様もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が居心地よく過ごせるように、声の大きさ、TVの音量、照明の明るさに気を配っている。ホーム内には、写真や作品を飾り生活感を出している。	明るいいリビングです。季節の花が生けられ、壁には入居者と職員が協働で作った季節の壁画が掛けられています。入居者は、キッチンで食事の準備を手伝ったり、ソファで寛いだり、居室で過ごしたり、思い思いに過ごしている様子から生活感と居心地の良さが感じられます。また、廊下にはベンチが置かれ、ひと休みできるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んでいただくように働きかけ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室の入口には手作りの表札が掛けてあります。入居者は、使い慣れた家具や好みの物を持ち込まれてます。家族が描いた絵や写真、趣味の楽器、仏壇を置く入居者もおり、居心地良く過ごせるよう工夫されています。ホームでは、コミュニケーションを図る手段の一つとして写真の持ち込みを依頼されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	低めの流し台を使っており、要所へ手すりも設置している。(安全面への配慮) また、ご本人が出来ることは見守りながら自らやって頂けるようにしている。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員間でグループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。グループホーム理念は、地域密着型サービスの特色を踏まえて作成されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の行事や毎月第三金曜日に開催されているふれあいミニサロンに参加している。また、西公民館に入居者様の作品を展示する機会を設けてもらい、地域住民の方との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアや近隣中学校の職場体験実習、認知症介護実践者研修などの実習を受け入れており、ホームの機能を還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月第四月曜日に開催される運営推進会議の場で、ホームの活動報告や現状について話し合いを行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。毎月、介護相談員(廿日市市職員)の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。スタッフの出入りは名前を云って行うようにしており、外出の察知ができるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修の参加で高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。また、虐待事例をスタッフ間で共有し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明などを行っていききたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文書と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問等があれば、十分な説明を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回納涼祭とクリスマス会において家族会を開き、意見や要望などをいただくように働きかけている。家族会でいただいた意見は、ご家族の代表者の方よりホームへ伝えてもらうようにしている。また、意見や苦情等の相談を受ける体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月第三水曜日に両ユニット合同のミーティングを行い、業務上の意見交換を行っている。その後、各ユニットに分かれてミーティングを行い、入居者様のケア方法などについて検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとり进行评估するシステムを導入している。また、管理者や主任と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加については、スタッフの希望する研修を受講できるように配慮しており、費用なども法人教育委員でサポートできる体制が整っている。また、毎月法人内で研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市社協主催の認知症キャラバンメイト連絡協議会に参加し、関係機関と意見・情報交換を行っている。また、近隣のグループホームの管理者と連絡をとり合い情報の交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接や見学時に話を聞かせていただき、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。入居後は担当者を決め、入居者様が不安のない生活が送れるように関係の構築に力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	面接や面会時にコミュニケーションをとりながら要望などを汲み取り、きちんとしたアセスメントを行うようにしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	介護保険制度のサービスについては、必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により専門医に相談・紹介するようにしている。必要に応じ、医療相談員との連携を図っている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	毎月カレンダー作りを入居者様と一緒にいき、共感したり、支えあう関係を築くようにしている。日々のケアにおいても笑顔が見られるように関係づくりに力を入れている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	面会時にご家族の思いを聞き、ご本人の様子や意向などをお伝えすることで信頼関係を築いている。またご本人の暮らしぶりは各部屋担当が「一ロメッセージ」を通して伝えている。(メッセージは毎月の請求書と一緒にご家族の方へ手渡している)		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	入所時になじみの物品を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真などを持って来ていただくなどの工夫をしている。また、ご家族や知人の方などの面会時に情報収集を行っている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ダブルのない関係が構築できるように入居者様同士の席順などに気を配っている。気の合わない入居者様同士が一緒になった場合は職員が介入し、お互いにストレスがかからないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、ご家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できることを主体として介護計画に取り入れ実践している。ご家族の方や部屋担当者の意向も踏まえて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の方より今までのライフスタイル、生活歴等について情報をいただき、入居者様一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様の有する力等を把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い健康管理に努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング	各ユニットで6カ月毎にカンファレンスを行		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	い、ケアプランの作成をしている。その際、ご本人、ご家族の方にもカンファレンスに参加して頂き、思いや意向の確認をしている。また、3か月おきにモニタリングを行い、プランの有効性についても確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりの行動記録があり、状態やケア内容、気づき等を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要な物品の買い出しや、ドライブ、外食の支援を行うなど柔軟に対応している。また、法人内の福祉用具販売部門を通してオムツや福祉用具の購入も可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地区の「ふれあいミニサロン」に毎月参加している。参加することにより季節感を味わってもらい、地域の方々とも交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の方の意向に沿った医療機関での受診・往診ができるように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設病院(大野浦病院)の看護職と連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時ご家族に対して、急変時や重度化した場合と終末期のあり方(延命治療等)についての意向を確認し方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成しており、スタッフ一人ひとりが内容を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行い、入居者様に意識していただくようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し、スタッフに徹底を図っている。近隣との協力体制については、地区の防災ワークショップに参加したり、援助を受けられるように運営推進会議で話し合ったりしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような言葉かけを行っている。また、日常生活の中で選択肢を増やし「選べる」ような工夫に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の意思や体調に配慮し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り朝は服に着替え、夜はパジャマに着替えるように支援し、昼夜のメリハリをつけてもらうようにしている。化粧は本人の意思に任せて行うようにしている。また、希望者には毛染めにも対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様一人ひとりの力を活かし、盛り付けや配膳、お盆拭きなどを一緒に行っている。入居者の方の誕生日にはその方が希望したお楽しみメニューを提供している。また、「まな板の音」や「料理のにおい」などで食に対する動機付けにも心掛けている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量や水分摂取量の記録を行い、		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	長年摂取量や水分摂取量の記録を行い、摂取状況の把握に努めている。摂取カロリーが不足している場合には、ご家族の方と相談し栄養補助食品などの摂取をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者様個々に応じた口腔ケア（義歯の洗浄等）を行っている。併設病院の歯科衛生士に定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けながらケアにつなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	スタッフは記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけの際に声の大きさなどさりげなく対応するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者様一人ひとりの状態を把握し、乳製品（牛乳等）の摂取をすすめたり、水分補給の徹底を図っている。その他対策として、おやつ前の体操や散歩などによる適度な運動を取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には2日1回の入浴。 入居者様一人ひとりの希望に沿ったケアを行っている。入浴を拒む入居者様には、無理をせずタイミングを見計らって声をかけるなど工夫している。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。 また、体調に合わせ、適度な休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用ができるようにしている。また、薬剤師と連携し薬をセッティングしてもらうなど誤薬予防のためのシステム作りができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても食器洗い、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴を活かせるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。6月には、山口県の蜂ヶ峰公園に薔薇を見に行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合には、ご家族の方に預り書を発行し管理している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者様もいる。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居者様が居心地よく過ごせるように、声の大きさ、TVの音量、照明の明るさに気を配っている。ホーム内には、作品を飾り生活感を出している。また、季節を感じさせる生花を置き、雰囲気づくりにも取り組んでいる。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングに畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んでいただくように働きかけ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	低めの流し台を使っており、要所へ手すりも設置している。また、部屋の入口には、ご本人の思い出の品物を置き、部屋を間違えないように工夫している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 ラ・メール大野

作成日 平成 25 年 11 月 11 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議において、地域住民の声を多く頂けるようにする。	地域住民から多くの意見をもらえるようにする。	ホームを地域住民の多くの人に理解してもらうため、運営推進会議に民生委員や老人クラブ代表にも参加して頂く。	1年
2	35	地域を巻き込んだ避難訓練ができるようにする。	地域住民と連携して避難訓練ができる仕組みを構築する。	運営推進会議において、民生委員に参加依頼し、ホームの現状を理解してもらうように努める。民生委員より地域住民にホームの現状を伝えてもらえるように働きかけ、地域との協力体制を築いていく。	1年
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。